



国土交通省中部地方整備局
名古屋港湾事務所
名古屋港湾空港技術調査事務所

伊勢湾における災害のメカニズムや名古屋港の防災対策を学ぶ ～フィリピン自治体職員が防災関連施設を視察しました～

名古屋工業大学高度防災工学センターと中部地方整備局は、独立行政法人国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業「Bohorizon Project」(フィリピンにおける地震・津波等の災害力向上プロジェクト)の研修の一環として、9月4日(金)フィリピンのトゥビゴン市長、ボホール州立大学土木建築学部長をはじめ9名をまねき、伊勢湾水理環境実験センター及び名古屋港の視察を行った。

【「Bohorizon Project」とは】

ボホール州トゥビゴン市における予防／準備／対応／復旧に関する防災能力向上プロジェクトで、将来的にも自然災害が繰り返し発生すると予想されるフィリピンのボホール島内の北西に位置するトゥビゴン市の各バラングイ(日本での学区)にて、トゥビゴン市の防災課が主導して、防災に関する情報を住民全体で共有できるシステムを構築し、台風と地震に対する住民の防災能力の向上への援助を目的としている。

■視察の目的

2013年にフィリピンを襲った大地震ならびに台風 Hayan による高潮を契機に、沿岸域の防災を考える取り組みがフィリピンで取り組まれている。今回の視察は、名古屋工業大学高度防災工学センターと国土交通省中部地方整備局がフィリピン自治体職員を受け入れ、災害のメカニズムや防災機能を知ってもらうため、実験装置及び名古屋港の高潮防波堤の取り組みなどを説明。過去に伊勢湾台風や東海豪雨により被災した名古屋市の経験から、水災害に対して先進的に取組まれている東海地域での国土交通省中部地方整備局の実験施設を見学し、高潮防波堤などの現地施設を視察することにより、自然外力に対する理解を深めその対策を知ることが目的としている。

■視察の様子

9月4日(金) 13:30～15:00

<伊勢湾水理環境実験施設視察>

研修員は、名古屋港湾空港技術調査事務所長から中部地方整備局の事業概要や伊勢湾の津波防災についての講義を受けたあと、伊勢湾環境水槽(伊勢湾を1/2000に縮尺した実験用模型)や波浪平面水槽(防波堤等の安定性実験を行う施設)を見学したり、液状化模型や津波模型での実験を体験し、港湾における防災についての知見を深めた。研修員らは、実験施設や展示模型の一つ一つに熱視線を送り、熱心に説明に耳を傾けていた。



研修員からは「波消しブロックは変わった形をしているがなぜか。」「この施設を今建設する場合はいくらくらい必要か。」などの質問の他、「実験施設がすばらしい。」「来日に利用したセントレア（中部国際空港）の地形を決めるにあたり、この施設で実験したと聞いて感動した。」などの感想が聞かれた。

9月4日（金）15：25～16：45

<名古屋港内視察>

研修員は、名古屋港湾事務所にて名古屋港の概要説明を受けた後、港湾業務艇「翔龍」に乗船し、新宝・金城・飛島・鍋田・弥富ふ頭や高潮防波堤など名古屋港内を視察。船内では、名古屋みなとサポーターの柳田哲雄氏より名古屋港の歴史や物流・産業機能などの説明と、名古屋港の防災対策や高潮防波堤防の説明があった。研修員らは、熱心に説明を聞き高潮防波堤や港湾施設などを写真におさめた。

研修員からは「名古屋港は、港湾運営、施設の構造、防災システムがしっかりしていて、とても洗練させた印象を受けた。」「日本の都市計画や、港の運営はしっかりしていて良い。」「フィリピンの地方港湾では、まだまだ整備が行き届いていない状況であり、日本を見習い計画的に実施していきたい。」などの感想が聞かれた。

4. 当日の様子（別紙）

5. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾空港タイムス、港湾新聞、日本海事新聞、海事プレス、名古屋工業大学新聞部

6. 問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局

契約管理官 岡本(おかもと)

TEL 052-209-6316 FAX 052-203-9738

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所

企画調整課 板生(いたお)

TEL 052-651-6763 FAX 052-652-0303

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾空港技術調査事務所(伊勢湾水理環境実験センター)

総務課長 近藤(こんどう)

TEL 052-612-9981 FAX 052-612-9452



当日の様子

【別紙】



伊勢湾水理環境実験センターでの座学



名古屋港視察の様子①



伊勢湾環境水槽での疑似津波実験



名古屋港視察の様子②



長水路水槽での津波実験



名古屋港視察の様子③